

総合型地域スポーツクラブ 訪問日記【2月号】

クラブ名	榎浜スポーツクラブ	訪問日	1月19日	訪問者	近藤 優子
訪問詳細	<p>1月の寒空の下「魅せるねー！」と、お互いのプレーを褒め合い、明るい声が飛び交う榎浜スポーツクラブのグラウンドゴルフクラブに今回はお邪魔しました。</p> <p>活動場所は徳山ボートレース場近くの双葉屋開作公園。実はこの公園、以前は雑草が生い茂り、整備のされていない場所でした。しかし、約1年前からグラウンドゴルフクラブのメンバーで整備を開始し、現在では8ホールを常設出来るほど立派な空間に生まれ変わりました。この公園を整備したことにより、地域の活性化にも繋がるのではないかと思います。</p> <p>今回お話を伺った高松さんと西田さんからは「できれば、もう8ホール作れるとベストなんです」と、これからの活動の充実意欲を覗かせるお言葉をいただきました。</p>				

クラブ名	コムスポ夢が丘	訪問日	1月21日	訪問者	玉城 克馬
訪問詳細	<p>今回は、コムスポ夢が丘が委託支援している「小学校放課後教室」にお邪魔させていただきました。放課後教室では、1時間程度のスポーツ活動や文化活動などを実施しています。今回はクラブマネジャーの木村さんと共に、「縄跳び」の指導を行いました。その他、課外活動や料理教室などもあり、子どもたちと地域の方が交流できる場となっています。</p> <p>放課後教室を通じて身体を動かす楽しさ、スポーツの面白さが伝わったのではないかと思います。これを機会にスポーツを始める子どもたちが増えてくると地域がより活気づいてくると思います。</p>				



☆レッツ！オリ・パラ☆

バドミントン競技は、1992年のバルセロナ大会から正式競技となり、男女シングルス・男女ダブルス・混合ダブルスが行われています。

バドミントンのルーツは英国に昔から伝わるバルドーアンドシャトルコックと呼ばれる羽根つき遊びで、もともとは競技性が低く、打ち続ける回数を競う程度のものであったそうです。その後、色々なルールが考え出され、ネットを張るといった発想も生まれました。

バドミントンにはシャトルという羽根を使用しますが、このシャトル1個は、16枚の羽根で出来ており、競技用のシャトルには、ガチョウやアヒルなどの水鳥からとった羽根が使われています。16枚の羽根は、すべて水鳥の右側か左側の羽根のいずれか1種類で作られており、これは左右の羽根をバラバラにつけてしまうと、まっすぐ飛ばないためです。

シャトルの規格には、重さや長さなど色々な規定があり、たくさんの工程や多くの検査を行います。機械で簡単に出来上がると思われがちですが、手作業の部分がとても多く、職人さんの熟練の技が要求される作業となり、職人さんの技術があってこそ選手も最高のパフォーマンスが発揮できるのではないのでしょうか。

普段あまり注目されていない裏方として支える人達の存在も大事であることを忘れてはいけませんね！

2020年
東京オリンピックまで
1991日
※平成27年2月10日現在